CASE STUDY

エンターテインメント
ハイブリッド型イベント対応スタジオ映像システム

Panasonic CONNECT

KAIROS×リモートカメラで運用を効率化。高品質な映像制作・配信を少人数で実現。



GMOサムライスタジオ株式会社 様

GMOサムライスタジオ 用賀

導入地域：関東
導入時期：2026年5月

課題

システムの柔軟性を高め、少人数で効率的に運用できるスタジオを構築したい

解決策

ソフトウェアベースの多彩な機能を備えたIT/IPプラットフォーム“KAIROS”と、マルチカメラ撮影に適したリモートカメラシステムを導入

“自社のスタジオ設備で完結できることが大幅に増え、これまで以上に効率的で安定したイベント運営、配信オペレーションが可能になったことは大きな変化です。”

GMOサムライスタジオ株式会社
テクニカルユニット
テクニカルコーディネーター
寺井 赳博 様

※所属は発行時のものです。

背景

リアル/配信両用で使えるスタジオシステムをリニューアル

「GMOサムライスタジオ 用賀」は、GMOサムライスタジオ株式会社様が運営するリアルイベントからオンライン配信、ハイブリッドイベントまで対応可能なスタジオ施設です。オープンから2年が経過した2026年5月、映像クオリティの向上と運用の効率化を両立できるシステムの整備を目的に、施設の全面リニューアルを実施。イベントの実施、映像制作・配信のコアであるWORLD STUDIOと第1調整室にIT/IPプラットフォーム“KAIROS”を中心としたパナソニックの映像システムが導入されました。

導入した理由

ソフトウェアの活用による高い運用性を評価

GMOサムライスタジオ株式会社の寺井 赳博様はシステム選定についてこのように語ります。「新しい設備は自社開発のソフトウェアなどと組み合わせながら、信頼性・安定性高く運用できるシステムにしたいと考えていました。そのため、ソフトウェアベースの柔軟性を備え、IPとSDI両方の入出力に対応したKAIROSはまさに求めていたものでした。また今回は、映像表現の幅を広げるためリモートカメラも採用しましたが、複数台のカメラや各種プラグインの一元管理が可能で、マルチカメラ撮影に適したソフトウェア「Media Production Suite（MPS）」を利用できることは、パナソニックのシステムを選定した決め手の1つでした。中でも、AIを活用したオートフレーミングが可能なAdvanced Auto Framing、PCやタブレットから高精度な色調整を行えるImage Adjust Proは現場に適していると考え、リモートカメラと合わせて導入しました」

高品位なスタジオ施設でハイクオリティなイベント体験を提供

リアル参加者/配信参加者それぞれに高品質な体験を提供するイベントをトータルプロデュースするGMOサムライスタジオ株式会社様。事業の中核を担う自社スタジオ「GMOサムライスタジオ 用賀」には、最新鋭の映像・配信設備を常設する「WORLD STUDIO」に加え、「SKY STUDIO」「LOUNGE STUDIO」の計3つのスタジオを備え、イベントのあらゆるシーンにおいてハイクオリティなサービスを提供しています。

■ 所在地：東京都世田谷区用賀四丁目10番1号 GMOインターネットTOWER 27F
■ URL：https://www.samurai-studio.gmo/



▲「GMOインターネットTOWER」外観。「GMOサムライスタジオ 用賀」は26階、27階に位置する

エンターテインメント

ハイブリッド型イベント対応スタジオ映像システム



▲ 第1調整室。主に映像の制作・配信、リモートカメラコントロールを担う機器が設置されている



▲ 約500型の大型LEDディスプレイを常設したWORLD STUDIOでのイベントの様子



▲ Kairos ControlとKairos Creator用のタッチディスプレイ（写真左上）



▲ WORLD STUDIO天井に設置されたAW-UE150K



▲ AW-RP200GJとAdvanced Auto Framing用のタッチディスプレイ



導入後の効果

KAIROSで4言語同時配信を実現

「GMOサムライスタジオ 用賀」では、KAIROSを用いてWORLD STUDIO内の6枚のトラスモニターへの映像出力、およびオンライン配信映像の制作を行っています。KAIROSの導入により複数プログラムを同時制作する際の業務効率が大幅に向上したと寺井様は語ります。「全世界に約8,300人のパートナー（従業員）がいるGMOインターネットグループでは、社内イベントの配信映像を4言語でそれぞれ制作しています。以前のシステムでは多数の機材追加がマストであり、また言語ごとにスイッチャーとオペレーターが必要になるなど、機材的にも人的にも非常に多くのリソースが割かれていました。しかし、ME数やKEY数の制約に縛られず、複数の映像制作系統を同時運用できるKAIROSであれば、1台で同時に4か国分の映像を制作できます。また、各配信のテロップは独自開発の多言語同時テロップシステムで自動生成していますが、KAIROSはHTML5グラフィックスに対応しているため、専用の機器を別途使用することなく映像へ直接入力することが可能です。加えて、VTRを全配信一斉に挿入する際はマクロ機能で同期させることで、オペレーター1名でもスムーズに、かつ自前の機材のみで複数プログラムの同時制作を実現できるようになりました」

リモートカメラシステムでマルチカメラ撮影を効率化

WORLD STUDIOでは、常設4台、仮設3台の計7台のリモートカメラを導入し、3台のスタジオカメラと組み合わせて運用しています。「AW-UE160Kはスタジオカメラと組み合わせても遜色のない画質で運用できています。また、天井設置したリモートカメラのプリセット機能により、観客に気付かれることなく自然なリアクションを撮影できるようになりました。天井からの俯瞰映像から被写体にズームするなど、リモートカメラだからこその撮影も取り入れられ、映像のクオリティを向上できました。カメラコントロールはリモートカメラコントローラーAW-RP200GJとMPSのAdvanced Auto Framingを用いて1名で行っています。Advanced Auto Framingではリモートカメラ3台のオートフレーミング制御が可能なため、コントローラーと組み合わせ最大8台の同時オペレーションを実現しています。また、ステージ全体を俯瞰で撮影するリモートカメラの映像から、フレーミング対象を選択・切り替えられる機能により、登壇者同士が離れている際のオペレーションもスムーズです。映像の色調整は、主にMPSのImage Adjust Proで行っています。リモートオペレーションパネルライクなUIで複数台のカメラ情報を1画面で確認できるため、省スペースで高度な色調整を行えます」と寺井様は話します。

お客様の声

イベント運営、配信オペレーションの効率化を実現できた

リニューアルを経て、自社のスタジオ設備のみで対応できることが大幅に増え、お客様への新たなご提案も可能になりました。また、より少人数で運用可能なシステムとなったことで人員配置の最適化も図れ、今まで以上に効率的かつ安定したイベント運営が可能になったことは大きな変化です。今回導入した機器を活用し、今後も当社だからこそできるイベント、映像の制作に取り組んでいきます。



GMOサムライスタジオ株式会社
テクニカルユニット
テクニカルコーディネーター
寺井 赳博 様　※所属は発行時のものです。

納入機器

- メインフレーム Kairos Core 200 **AT-KC200TL1** ……×1台
- コントロールパネル Kairos Control **AT-KC10C1G** ……×1台
- Kairos Creator **AT-SFC10G** ……×1式
- 4Kインテグレーテッドカメラ **AW-UE160K** ……×5台
- 4Kインテグレーテッドカメラ **AW-UE150K** ……×2台
- HDインテグレーテッドカメラ **AW-HE20K** ……×1台
- リモートカメラコントローラー **AW-RP200GJ** ……×1台
- リモートカメラコントローラー **AW-RP60GJ** ……×1台
- Media Production Suite Advanced Auto Framing（フレーミングカメラ3台制御ライセンス）……×1式
- Media Production Suite Image Adjust Pro ……×1式

Panasonic CONNECT

発行： パナソニック株式会社 イメージングソリューション事業部
〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号

その他の納入事例に関しては、ホームページをご覧ください。

https://connect.panasonic.com/jp-ja/

2026.10.UN
SP-U-GMOJPU1